

YAMAHA YP-D71

DIRECT DRIVE AUTO STOP QUARTZ LOCKED

取扱説明書



●ごあいさつ

このたびは、ヤマハステレオレコードプレーヤーYP-D71をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

YP-D71は、ダイレクトドライブモーターの心臓部ともいえるサーボ回路にクォーツPLL（水晶発振器を内蔵した位相制御方式）を採用し、モーターの回転精度を極限にまで追求して音楽をリアルに再生するシステムとしての完成度を高めております。

また、光電検出式オートアップ・ストップ機構やすぐれたトレーシングアビリティをもつ高感度トーンアーム、共振を抑えた堅牢なキャビネットなどにヤマハの持つプレーヤー技術を結集させました。

YP-D71を長年にわたってお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、末長くご愛用くださいますようお願いいたします。

●特長

レコード音溝に刻まれた音楽信号のみを忠実に送り出すというプレーヤーの基本的条件を満たしきったのが、お手もとのYP-D71です。

■非接触光電検出式オートアップ・ストップ機構

レコードエンドの導出溝でトーンアームの送り速度があがるのを非接触で検出し、トーンアームをアップさせモーターの電源を切るというヤマハ独自のオート機構です。しかも、万一レコード演奏中に電源が切れても、トーンアームがアップしモーターの電源が切れ、レコードや針先を保護する（コンセントを抜いても同様）というすぐれた機構です。

また、非接触検出であるためカートリッジに悪影響を与えないばかりでなく、ハイコンプライアンス、軽針圧カートリッジを安心してご使用いただけます。

■クォーツ発振フェイズロックコントロール

モーターの回転速度は、水晶発振器の発振周波数を基準にしてPLL機構でロックされま

す。そのため温度ドリフト、時間ドリフト、経時変化が少なく、回転数精度 $\pm 20\text{ppm}$ 以下という値を得ています。

また、モーターが定常回転に達すると、フェイズロックしたことを示すLOCKEDインジケーターが点灯します。

■高感度ジンバルサポートトーンアーム

水平方向、垂直方向の動作を各々2個所で支持する4ピボットの完全なジンバルサポート方式の採用で、水平・垂直の初動感度は共に7mgです。また、次のような数々の特長も備えております。

- トーンアームをハウリングや共振から守る重量級亜鉛ダイカスト製アームベース
- 市販のほとんどのカートリッジの高さをカバーできる、ストローク $\pm 4\text{mm}$ の高さ調整機構
- 多様化しているカートリッジのキャラクターを十分に反映する有効長242mmのS字型

ロングトーンアーム

- 小型、軽量、高剛性のヘッドシェルなどすべてが音質を重視した設計です。

■重量級ターンテーブルとゴムシート

ターンテーブルは直径31cm、重量1.8kg、慣性性能率 $230\text{kg}\cdot\text{cm}^2$ （いずれもゴムシート含む）と大きく、ワウフラッターを極限まで抑え滑らかな回転を得ております。

■高密度パーティクルボードのキャビネット

音質に大きな影響を与えるキャビネットは高密度積層パーティクルボードで形成され、特殊形状の大型インシュレーターと共に、外部からの有害な振動を抑えハウリングに強い設計になっています。

■その他

マニアライクなトーンアーム、そして美しい木目仕上げのデザインは、人間工学を追求した操作性と共に、オーディオの世界に大きく先行するヤマハならではの製品です。

●目次

特長	2
ご使用になる前に/次のことにご注意ください	3
プレーヤー各部の名称・組み立て	4
トーンアームの調整	6
ダストカバーの取り付け/アンプへの接続	8
レコード演奏のしかた/規格	9
故障と思われるときには	10
サービスのご依頼について	11

■設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ①直射日光の当る場所や暖房器具のそばなど極端に暑いところ
- ②温度の特に低いところ
- ③湿気やホコリの多い場所

■ベンジン、シンナー類は大敵

キャビネットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、すぐそばでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。ベンジンやシンナー類がつくと、キャビネットが汚れたり変色したりします。

お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

■取り扱いがていねいに

物をぶつかけたり、落したりの乱暴な取り扱いは部品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。ていねいにお取り扱いください。

■振動のない静かな所を

振動の多い場所やスピーカーシステムの近くには置かないでください。台もしっかりしたものを選んでください。

■古いレコード針は使わない

針先の寿命は使用するレコードの状態によって異なりますが、ダイヤ針で200～300時間使用したら交換してください。針先が摩滅すると音が歪んだり、ピリついたりして、レコードを傷める原因になります。

■アンプから離して

接続するオーディオアンプと並べて設置する場合には、アンプの電源トランス側と本機のトーンアーム部をできるだけ離して設置してください。

■水平に保つこと

プレーヤーの水平が保たれていませんと、回転速度やトーンアームの動きに悪影響を与えます。必ず水平に設置してご使用ください。

■電源電圧はAC100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。※本機は、国内電源AC100V50/60Hzでお使いください。この電圧以外でのご使用は保証できかねます。

■保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。

■保管してください

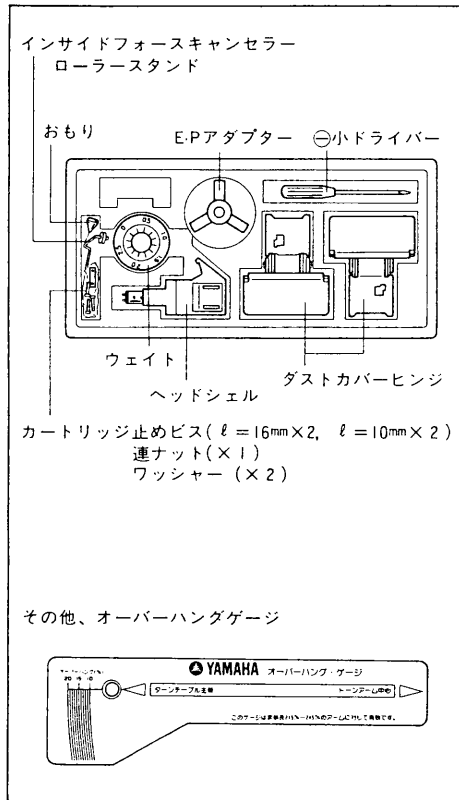
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

YP-D71

プレーヤー各部の名称・組み立て

● プレーヤー各部の名称と機能

■ 付属品



■ 本体

ゴムシート
ターンテーブルの鳴りを静め、同時にレコードの共振を防ぎます。

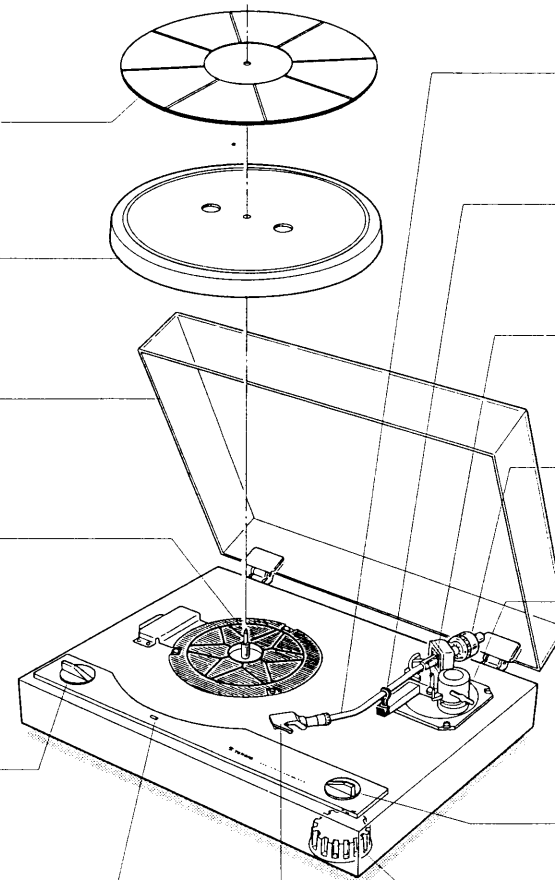
ターンテーブル
センターシャフトに静かに差し込んでください。この上にゴムシートを乗せます。

ダストカバー
着脱可能のダストカバーです。トーンアームの組み立ての際には、カバーを取り外した方が楽にできます。

センターシャフト
モーターの回転をターンテーブルに伝える重要な部分です。

POWER/SPEED スイッチ
電源と回転数切り換えスイッチです。
●ON/33...回転数33-1/2r.p.m.のレコードを演奏するとき、このスイッチをON/33に合わせます。
●OFF...レコード演奏をしないときはOFFの位置にしておきます。また、レコード演奏中にOFFにしますと、トーンアームがアップしターンテーブルの回転が止まります。
●ON/45...回転数45r.p.m.のレコードを演奏するとき、スイッチをこの位置に合わせます。

LOCKED インジケーター
モーター(ターンテーブル)の回転数がクォーツPLLによって、定常の回転数に達しロックされるとこのインジケーターが点灯します。



トーンアーム
トーンアームは精密部品で構成されていますので、無理な力を加えることは避けてください。

アームレスト
演奏終了後及び運搬時には必ずアームレストにトーンアームを戻してください。

インサイドフォースキャンセラー
ローラー付き糸吊りタイプで、バイアス調整ができます。(取り付けは7頁をご参照ください。)

ウェイト
トーンアームのバランスと、針圧を決定します。

ロックツマミ
トーンアームの高さを調整し、ベースシャフトに固定するとき、ロックツマミをしっかり締めてください。

MOTOR/CUE スイッチ
●PLAY...ターンテーブルにレコードを乗せ、カートリッジの針先をレコードの演奏したい場所の上に持ってゆきます。次に、このスイッチをPLAY位置まで(右に)回しますと、ターンテーブルが回転を始め、針先が静かにレコード面上に降ります。
●CUT...レコード演奏を途中でやめたいとき、このスイッチをCUT位置まで(左に)回しますと、トーンアームがアップし、ターンテーブルの回転が止まります。

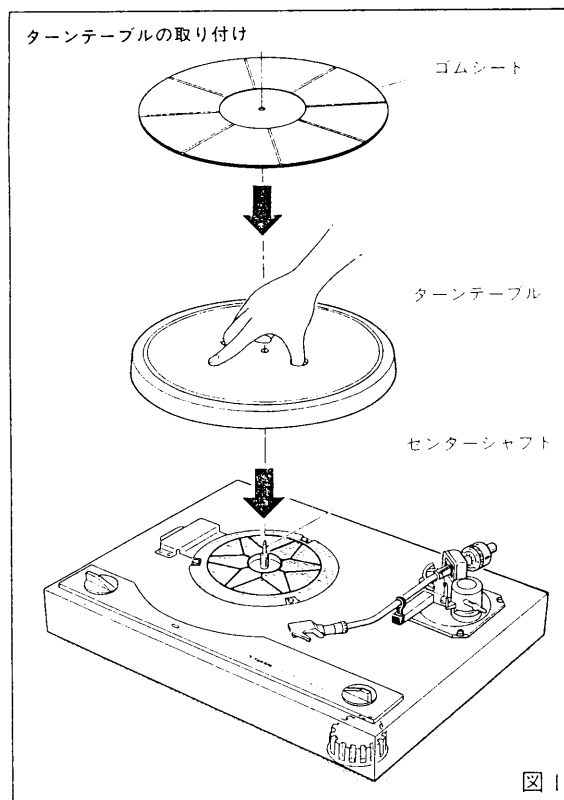
ヘッドシェル
ヘッドシェルをトーンアームに取り付けるときは、接触不良のないようロックナットをしっかり締めてください。

インシュレーター
W型ゴムの大型インシュレーターです。

●ターンテーブル、カートリッジ、トーンアームの組み立て

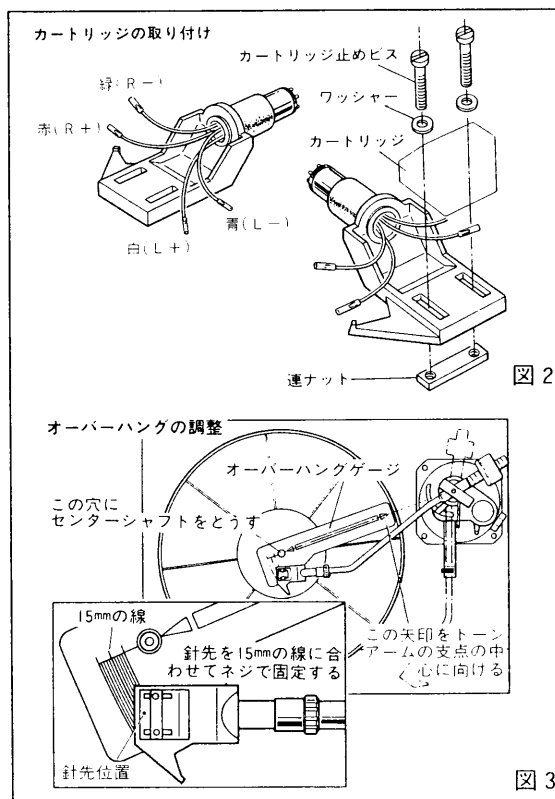
①ターンテーブルの取り付け

ターンテーブルを取り出し、センターシャフトに静かに差し込んでください。このとき図1のようにターンテーブルの2つの穴に指を入れて持ちますと、取り付けが楽にできます。(ターンテーブルを回転させたとき、ターンテーブル周辺が上下に振れることのないようにしっかり差し込んでください。) つぎに、ターンテーブルの上にゴムシートを乗せてください。(図1)



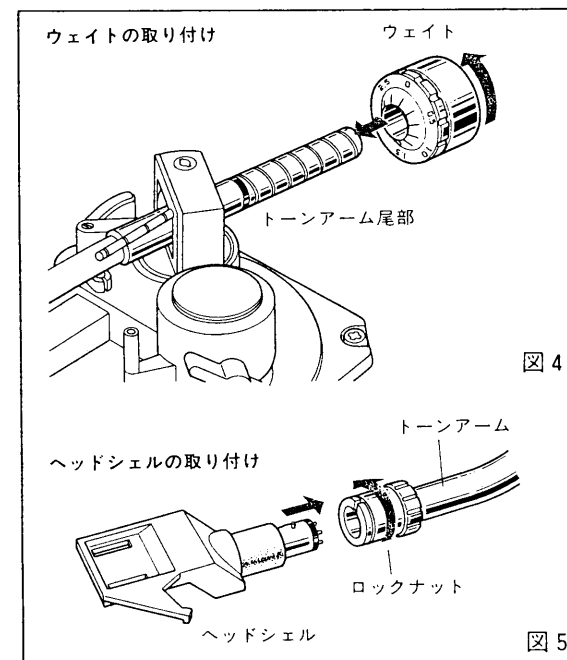
②カートリッジの取り付け

YP-D71にはカートリッジは付属していませんが、ヘッドシェルには自重3~12gまでのカートリッジが取り付けられます。カートリッジを取り付けるときは、図2のようにヘッドシェルのリード線をカートリッジの各ピンに間違いのないよう正しく接続してください。オーバーハングの調整は、図3のように付属のオーバーハングゲージを用い15mmに合わせてください。



③トーンアームの組み立て

1. 付属品の中からウェイトを取り出し、図4のように矢印の方向に回しながらトーンアーム尾部より押し込みます。ウェイト内部のクリックストッパーとアーム尾部のラセン溝がかみ合い、ウェイトはアーム正面から見て反時計方向(左)に回すと前へ、時計方向(右)に回すと後ろへとスムーズに移動するようになります。
2. カートリッジの付いたヘッドシェルを、シェルの突起ピンを上にしてアーム先端のロックナット部へ差し込み、ロックナットを回して固定します。(図5)



トーンアームの調整は、下に示した順序で行なってください。

1. バランス調整

2. 針圧調整

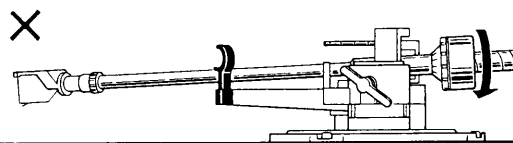
3. インサイドフォース
キャンセラーの調整

4. トーンアーム
の高さ調整

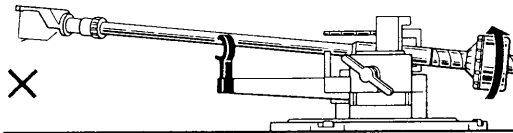
1 トーンアームのバランス調整

1. カートリッジの取り付けとトーンアームの組み立てが終わりましたら、バランス調整をします。
2. カートリッジに針カバーが付属されている場合は針カバーを下げ、取りはずしのできる針カバーははずしてください。次に、トーンアームをアームレストから引き出します。
3. ヘッドシェルフィンガーから軽く指をはなしてトーンアームの水平バランスを調べます。ヘッドシェル側が重ければ頭部が下がります。
4. トーンアームが完全に水平になるように図6を参考にして、ウェイトを前後させ調整します。ウェイトはゆっくり回すようにしてください。
5. 完全にバランスがとれましたら、トーンアームをアームレストに戻しておきます。

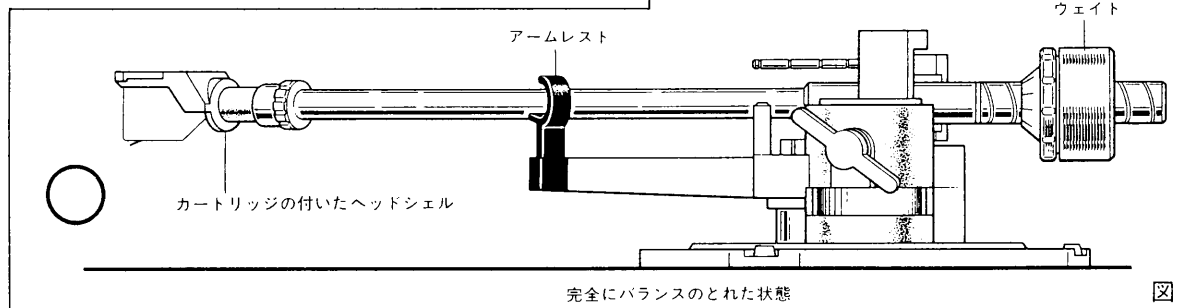
バランス調整



頭部が重すぎる(矢印方向にウェイトを回す)



尾部が重すぎる(矢印方向にウェイトを回す)



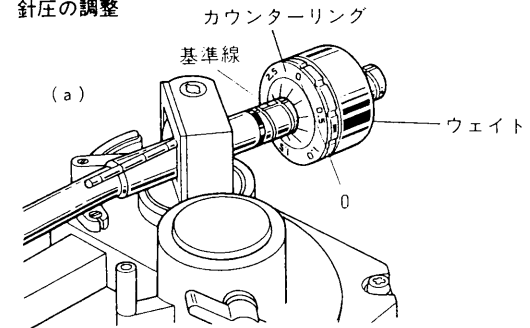
完全にバランスのとれた状態

図6

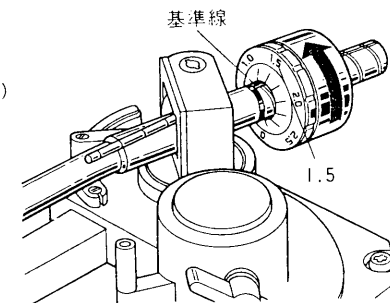
2 針圧調整

1. 水平バランスがとれた時のウェイトの位置を動かさないようにして、ウェイト前部のカウンターリングだけを回し、図7(a)のようにカウンターリングの数字“0”をトーンアームの基準線に合わせてください。
2. ウェイト本体を回しますとカウンターリングも一緒に回りますので、ウェイトを図7(b)の矢印方向にゆっくり回し、適正針圧の値をトーンアームの基準線に合わせます。たとえば、カートリッジの適正針圧が1.5gならカウンターリングの数字“1.5”をトーンアームの基準線に合わせてください。

針圧の調整



(a)

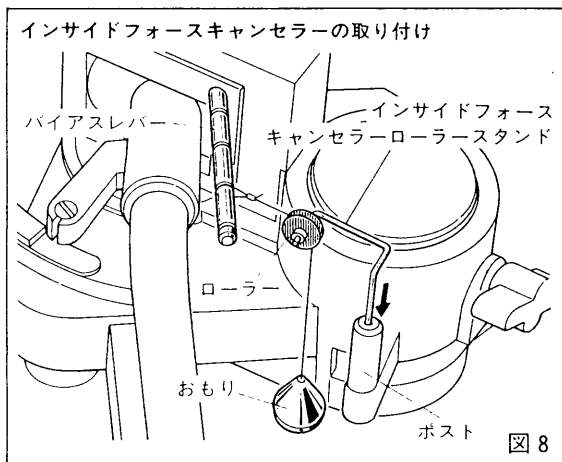


(b)

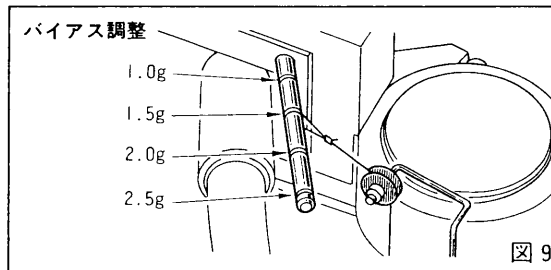
図7

③ インサイドフォースキャンセラーの取り付けと調整(バイアス調整)

1. インサイドフォースキャンセラーの取り付けは、トーンアームをアームレストに固定して行なってください。
2. 付属のインサイドフォースキャンセラーローラースタンドを、図8のようにポストに差し込みます。つぎに、おもりに付いている糸の輪の部分バイアスレバーの適当な位置（この位置は後で調整します。）にかけておき、糸をローラーにかけてください。



3. バイアスレバーにかかる糸の位置は針圧によって決まります。一番奥の溝が1.0g、あとは0.5gステップで一番手前の溝が2.5gのときの位置です。たとえば、カートリッジの適正針圧が1.5gなら、バイアスレバーの1.5gの位置の溝に糸をかけてください。（図9）

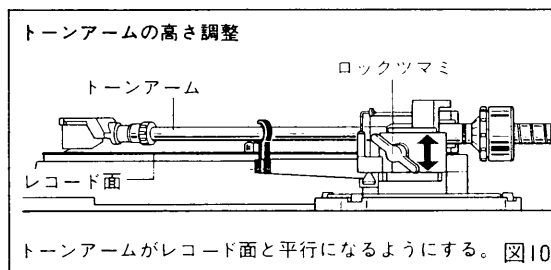


④ トーンアームの高さ調整

1. 針カバー付属のカートリッジは針カバーを上げ、取りはずせる場合ははずしておきます。
2. ターンテーブルにレコードを乗せ、針先をレコード面上に置いてみます。軸受部のアームベースのロックツマミをゆるめ、トーンアーム全体を静かに上下させトーンアームとレコード面が平行になるよう調整します。トーンアームとレコード面の平行がとれましたらロックツマミをしっかり締めておきます。（図10）

(注)この調整を行なうときは、針先やレコード面を傷つけないよう慎重に操作してください。

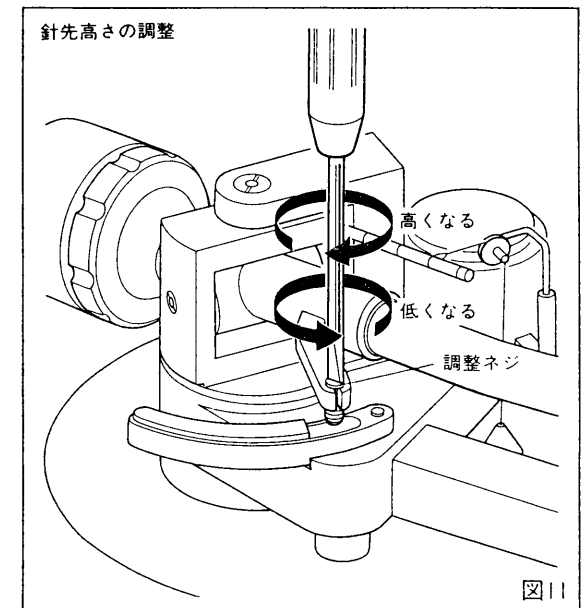
3. トーンアームの高さ調整が終わりましたら、トーンアームをアームレストに戻し、固定しておいてください。



⑤ 針先高さの調整

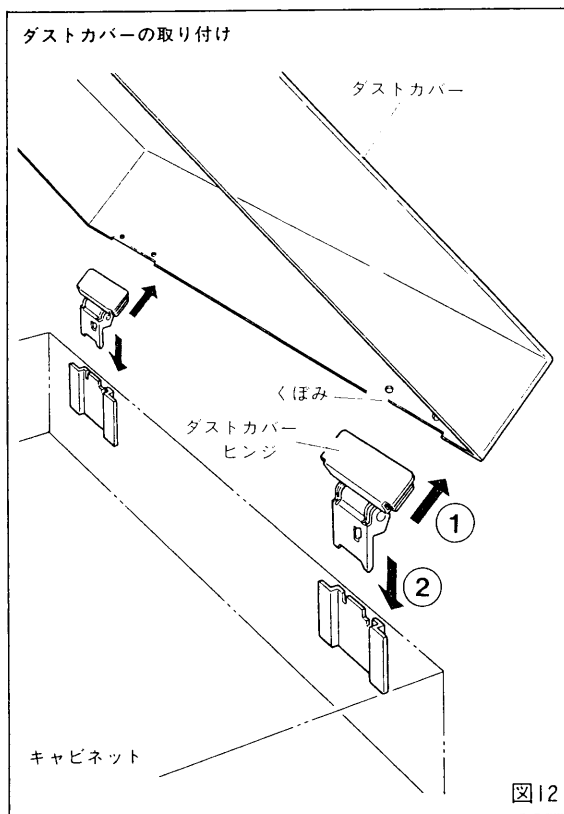
カートリッジなどを交換しレコード面から針先までの高さを変えたい場合には、図11に示す調整ネジを付属の⊖小ドライバーを用い次のように調整してください。

1. MOTOR/CUEスイッチをCUTの位置まで(左に)回してください。
2. ターンテーブルにレコードを乗せ、トーンアームをレコード面上の適当な位置まで持ってゆきます。
3. レコード面からの針先高さを高くしたい場合は、調整ネジを右に回してください。
4. 針先高さを低くしたい場合は、調整ネジを左に回してください。
5. 針先高さが4～10mmになるように調整します。



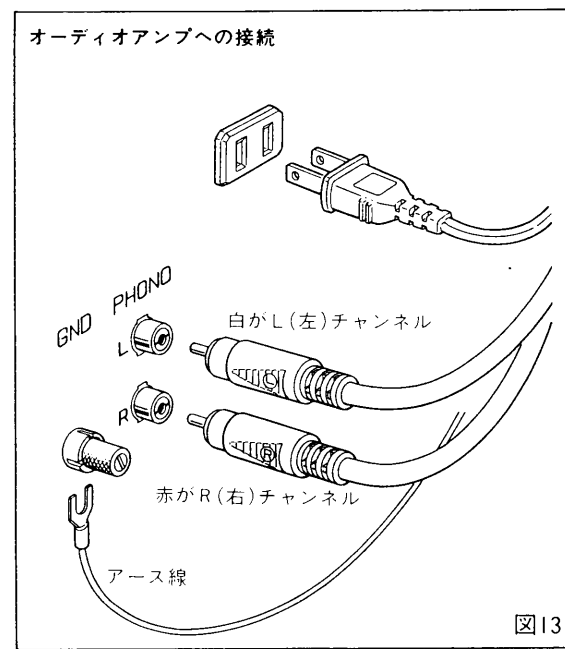
●ダストカバーの取り付け

1. 付属品のダストカバーヒンジを取り出し、図12のようにダストカバー後面の2ヶ所のくぼみに合わせそれぞれ差し込んでください。
2. ダストカバーに取り付けられたヒンジを、キャビネット後面左右の金具に左右とも同時に差し込んでください。
3. ダストカバーは40°以上開いたときからフリーストップの効果があります。また、着脱可能です。取りはずす場合は逆に行なってください。



●アンプへの接続

1. キャビネット背面から出ている出力コードを、オーディオアンプのPHONO端子に接続します。このとき、L・Rを間違えないようにしてください。白がL(左)チャンネルで、赤がR(右)チャンネルです。
2. 出力コードから出ている黒のアース線を、オーディオアンプのGND(アース)端子に接続します。アンプによってはアース線を接続しない方がハム雑音に対してよい結果を得ることがありますので、このような場合にはハム雑音の少ない方を選んでください。
3. 本機の電源プラグをACコンセントか、オーディオアンプの予備電源コンセントに接続してください。

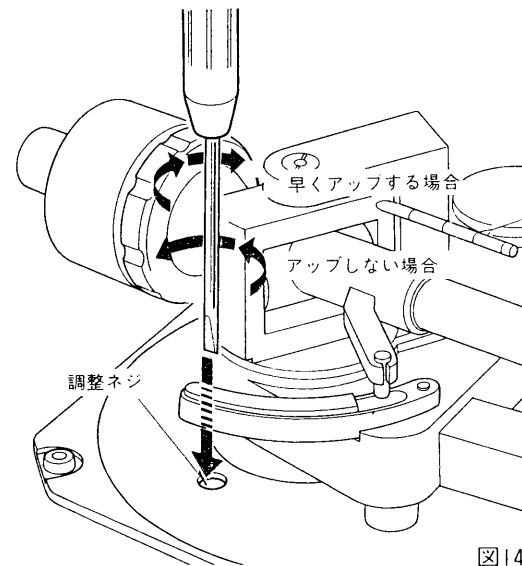


●オートアップのタイミング調整

この調整は出荷の際調整されており、みだりに調整しないでください。

- もしこのタイミングがずれていたり、あるいはタイミングを変更したい場合は、図14に示す調整ネジを付属の⊖小ドライバーを用い次のように調整してください。
1. トーンアームをアームレストに固定し、調整ネジ部のゴムキャップをはずします。
 2. レコード演奏中にトーンアームがアップする場合は、調整ネジを右に回してください。
 3. 針先がレコードの最終導出溝まで進んでもトーンアームがアップしない場合は、調整ネジを左に回してください。
 4. オートアップのタイミングは段階的にしか変わりません。(左右共2段階)

オートアップのタイミング調整



●レコード演奏の手順

本機の組み立てと調整が終わりましたら、次の順序でレコード演奏をお楽しみください。

1. プレーヤー、アンプ、スピーカーの接続コードをチェックしてください。

- 電源コード→ACコンセントかアンプの予備電源コンセント
- 出力コード→アンプのPHONO端子(L・Rを間違えないように)
- アース線→アンプのGND(アース)端子それぞれ正しく接続されているかどうか確認してください。



2. 接続したアンプを動作状態にします。
アンプのPOWERスイッチをONにし、FUNCTION(入力切り換え)スイッチを“PHONO”の位置にセットします。アンプのボリュームは絞っておいください。



3. 演奏するレコードを静かにターンテーブルに乗せてください。
45回転EPレコードは、付属のEPアダプターをターンテーブルのセンターシャフトに差し込みます。



4. セットしたレコードの回転数に合わせて、POWER/SPEEDスイッチを切り換えます。

5. カートリッジの針先をレコードの演奏したい場所の上に持ってゆき、MOTOR/CUEスイッチをPLAY位置まで(右に)回してください。
ターンテーブルが回転を始め、定常の回転数になりますと、LOCKEDのインジケーターが点灯します。と同時にトーンアームがレコード面上に静かに降ります。



6. レコード演奏
アンプのボリューム、音質を適当に調整してお聴きください。



7. レコード演奏が終わりましたら、トーンアームがアップし、ターンテーブルの回転も止まります。
途中でレコード演奏をやめたいときは、MOTOR/CUEスイッチをCUTの位置まで(左に)回してください。トーンアームがアップし、ターンテーブルの回転が止まります。



8. トーンアームがレコード面から離れたらアームレストに戻し、POWER/SPEEDスイッチをOFFの位置にしてください。

●規格

■フォノモーター部	
駆動方式	ダイレクトドライブ
モーター	コアレス・クォーツロックDCホールモーター
	起動トルク1kg・cm, ロックイントルク500g・cm
ターンテーブル	31cmアルミダイキャスト
	重量1.8kg, 慣性質量230kg・cm ² (ゴムシート含む)
モーター電源	DC24V, 600mA
回転数	33 $\frac{1}{3}$, 45r.p.m クォーツロックインジケーター付き
S/N比	62dB以上(JIS)
ワウ・フラッター	0.025%以下(WRMS)

■トーンアーム部	
型式	スタティックバランス ジンバルサポートS字型
トーンアーム全長	318mm
トーンアーム有効長	242mm(ロングアーム)
オーバーハング寸法	15mm
オフセット角	21°15'
トラッキングエラー	+2°30', -1°
ハイトアジャスト	±4mm
アームベース	φ27真ちゅう製ベースシャフト付き
	垂鉛ダイキャスト
インサイドフォースキャンセラー	ローラー付き糸吊りタイプ
アームリフター	オイルダンプキューイング
針圧	カウンターリング式0.25gステップ
カートリッジ適用範囲	3~12g
ヘッドシェル	EIA規格プラグイン型
	鍛造純アルミニウム、重量9g
PUコード	NEGLEX2496
	ローインピーダンス二重円筒コード
オート機構	非接触フォトセンサー式オートアップ・ストップ
	(電源OFFの時もオートアップ)

■キャビネット	
外装	塩ビ黒檀化粧積層パーティクルボード
オートヒンジ	フリーストップ着脱可能
	(フリーストップは40°以上開いた時有効)
インシュレーター	W型ゴムインシュレーター

■総合	
定格電源電圧、周波数	AC100V, 50/60Hz
定格消費電力	9W
外形寸法(W×H×D)mm	470×150×378
総重量	11kg

《規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。》

故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、次の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは疑問の点がございましたら、お買い上げ店又は日本楽器各支店のオーディオサービス係にサービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
MOTOR/CUEスイッチをPLAYにしてもターンテーブルが回らない	電源コードがACコンセントかアンプの予備電源コンセントにしっかり差し込まれていない	ACコンセントかアンプの予備電源コンセントにしっかり差し込み直してください
カートリッジを交換した時など（ゼロ）バランスがとれない	カートリッジが重いか、または軽すぎる	カートリッジ重量適用範囲は3～12gです 範囲内であればウェイトを前後にずらして再調整してください
針先をレコード面に降ろしても音が出ない	ヘッドシェルコネクターの接触不良	コネクターのピンを布などでみがいてみてください
	アンプのファンクションがPHONOになっていない	ファンクションを正しくPHONOに合わせてください
	アンプのボリュームが絞られている	ボリュームを適当な位置まであげてください
	プレーヤーの出力コードの接続不良	アンプ、リアパネルの接続端子を確認してください
カートリッジの腹がレコード面に接触する	針圧が重すぎる	適正針圧に再調整してください
	トーンアームの高さが不適當	トーンアームの高さを正しく調整してください
再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”、“バチ、バチ”という音がし、特に高音域がひずんで汚ない	プレーヤーが水平でなく傾いている	水平に設置し直してください
	針先にホコリなどが付着している	針先を針先掃除用刷毛などできれいにしてください
	針先が摩耗している	針先を交換してください
	レコード自体が痛んでいた、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してください
	針圧が軽すぎるか重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直してください
再生音がふるえたり、ハウリング（ポワーンという音）を起こして聴きにくい	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で振動が伝わり共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてください（特に部屋のコーナーは避けてください）
	アンプの高音をあげすぎている	高音をFLATポジションに戻してみてください
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る	プレーヤーのアース線をアンプのアース端子に接続していない	アース線をアース端子に接続してください（接続しない方がよい場合もあります）
	ヘッドシェルコネクターの接触不良	コネクターのピンを布でみがいてください
LOCKEDインジケーターが点滅又は点灯しない	内部回路の調整ズレ又は不良	お買い上げ店又は日本楽器各支店オーディオサービス係までご連絡ください

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器各支店オーディオサービス係へお願いいたします。

■本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

■保証期間の1ヵ年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中“故障と思われるときには…”の項をお読みになってください。意外と故障ではない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(ステレオの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならぬようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右のオーディオサービス係又は裏表紙の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

■サービスのお約束

昼間ご不在がちなお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願いいたします。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■各支店住所 (オーディオサービス係)

東京支店・〒101	東京都千代田区神田 TEL (03)255-2241
横浜支店・〒231	横浜市中区本町6-61- TEL (045)212-3111
千葉支店・〒280	千葉市千葉港2-1(千 TEL (0472)47-6611
関東支店・〒370	高崎市歌川町8番地 TEL (0273)27-3366
大阪支店・〒550	大阪市西区江戸堀1-1 TEL (06)445-6421
神戸支店・〒651	神戸市灘区浜辺通 TEL (078)232-1111
四国支店・〒760	高松市西宝町2丁目6 TEL (0878)33-2233
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18 TEL (052)201-5141
北陸支店・〒921	金沢市泉本町7-7 TEL (0762)43-6111
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅 TEL (092)472-2151
北海道支店・〒064	札幌市中央区南十条 TEL (011)512-6111
仙台支店・〒983	仙台市原町南目薬師 TEL (0222)95-6111
広島支店・〒731-01	広島市紙町西原86 TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市田町32 TEL (0534)54-4115

このゲーシは実効長215%~245%のカーブに対して有効です。

オーバーハング(%)
20 15 10

ターンテーブル主軸



YAMAHA

オーバーハング・ゲーシ

ターンテーブル中心

(内)